

ヨーロッパザラボヤ関係調査結果

※北海道ほたて漁業振興協会からの受託研究で実施

道総研中央水産試験場

◎ヨーロッパザラボヤ浮遊幼生調査

9月15日に祝津ホタテ養殖漁場のホタテ部会の試験用桁で、表層から水深30mの浮遊幼生調査を行いました。調査の結果、ザラボヤの浮遊幼生は確認されませんでした（表1）。しかし、5月12日に垂下した試験籠への付着状況では 137 個体と非常に多くの付着を確認しました（図1）。付着サイズは平均30.2mm（最大47.0mm、最小16.1mm）でした。先月の平均サイズは17.9mm、最小個体は8.7mmでしたが、今月は全体的に大型化していて小型のものが見られないことから、籠への付着数の増加は新規の付着によるものではなく、ザラボヤの成長で目視可能な個体が増えたためと考えられます。また、ザラボヤの付着が多い時期を推定するために設置したザラボヤ付着器への付着数（表2）は、5月12日に設置したもののみ多いことから、5月の中旬から6月上旬にかけてザラボヤの付着が多かったものの、6月中旬以降は少なかったと推定しています。

表1：ヨーロッパザラボヤ浮遊幼生調査結果

場所	水深	水温 【℃】	クロロフィル 【μg/L】	ザラボヤ	
				個	個/トッ
ホタテ部会の調査桁	0~30m	17.6~22.0	0.1~1.5	0	0

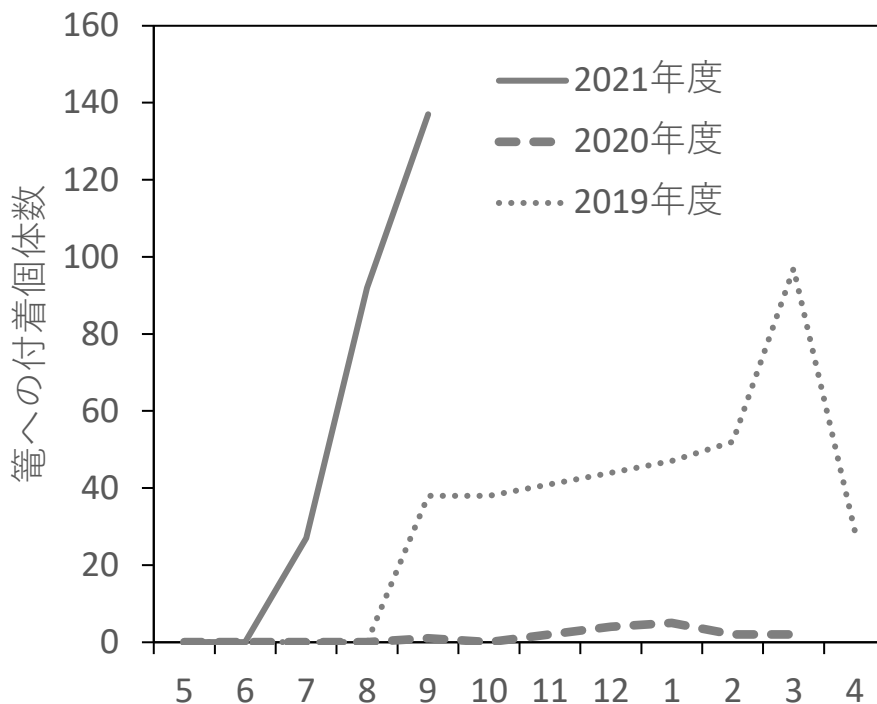


図1：籠へのヨーロッパザラボヤの付着数の変化

表2：ザラボヤ付着器への付着数

設置	回収	付着数
5月12日	7月14日	21
6月16日	8月6日	0
7月14日	9月15日	1

【参考資料】

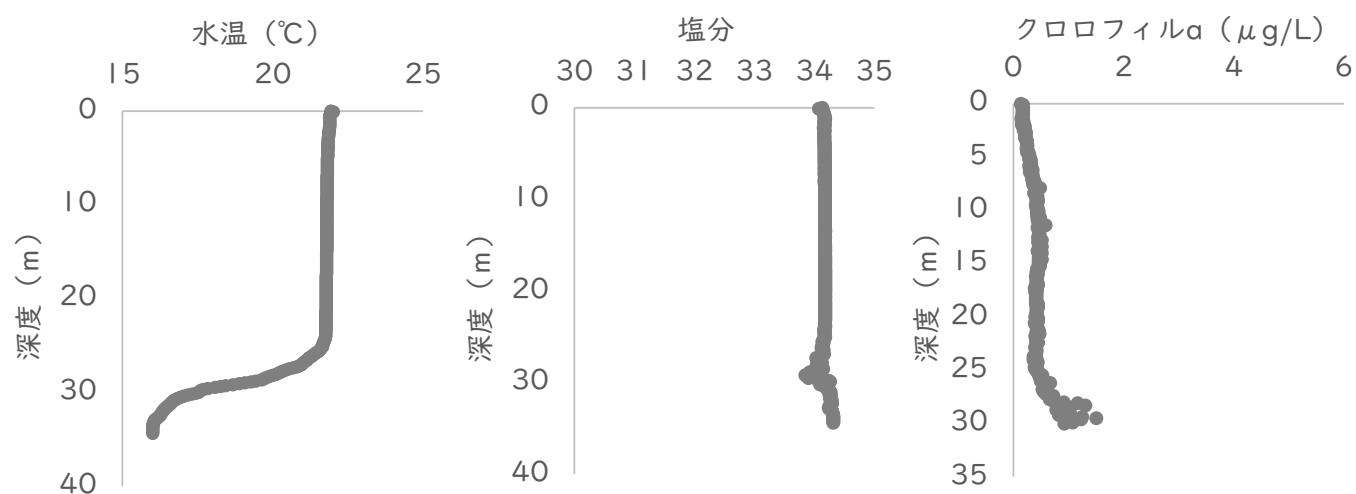


図2：ホタテ部会調査桁の水温・塩分・クロロフィルの鉛直分布

©ヨーロッパザラボヤ調査は今後継続して実施します（次回調査：10月中旬に実施予定）。

※調査結果は中央水産試験場 HP から確認できます。

<https://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/zoushoku/tkh4vd0000002m9a.html>